

①相生湾(瀬戸内海)

●取組名

相生湾におけるアマモ場づくり

●取組の主体

相生湾自然再生学習会議

(市民団体:相生湾を中心にアマモ場再生等の自然再生活動を行っている)

●取組開始年度

平成 15 年

●取組の目的

自然豊かであった相生湾を目指すため、取組の一環としてアマモの移植を行っている。

●主な取組内容

相生湾内の複数の場所においてアマモの移植を行い、アマモ場を再生させる取組を行っている。本資料では、取組場所 A に対して行った調査結果を示す。



●取組効果の把握

a)調査概要

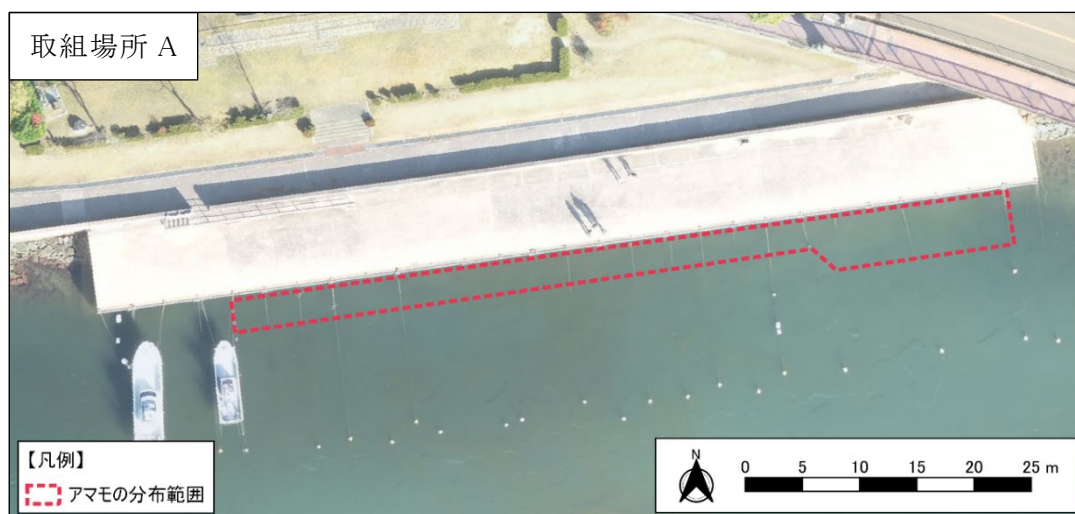
アマモの移植の効果を把握するために行った調査の概要は以下のとおりである。

現地調査概要

目的	項目	方法	地点	調査時期
アマモの分布状況把握	アマモ場の範囲、分布	ドローンを用いて空撮画像から分布範囲を判別	アマモ場全域	2021年12月
		ダイバーの潜水目視により視覚的に分布範囲を判別		
アマモの生育状況	アマモの被度・株数	ダイバーによりコドラート(1m×1m)を用いてアマモの生育被度、株数を測定	取組場所 A:3点	

b)調査結果

ドローンによる調査では、取組場所 A においてアマモの分布が確認された。

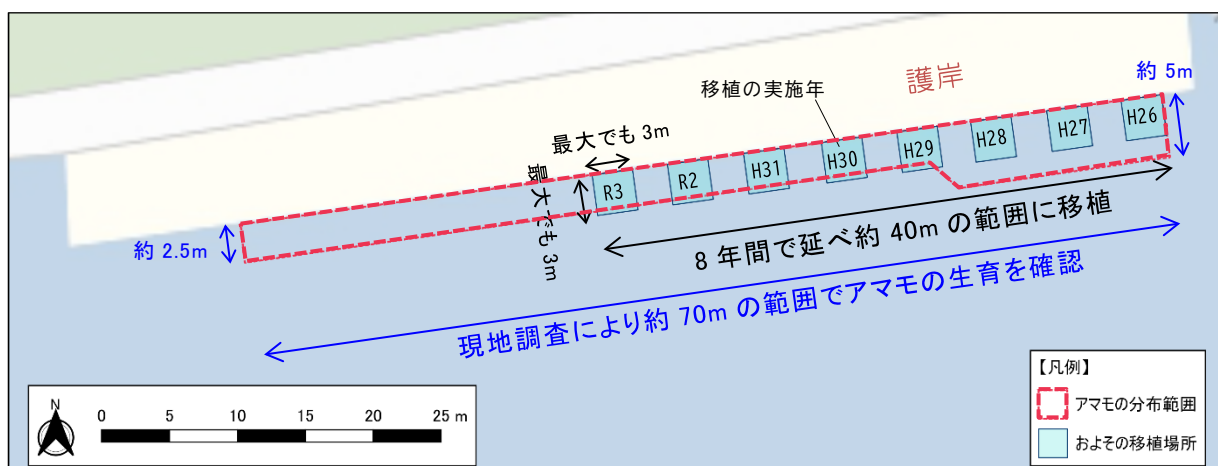


注)ドローンによる空撮写真と潜水目視により確認したアマモの分布範囲を重ね合わせて作成

取組場所 A におけるアマモ場の被度階級は、1～2であった。また、アマモの生育状況は、株数が8～30 株/m²、平均葉体長が6～10cm であった。

取組場所 A	
生育状況	被度階級：1～2、株数：8～30 (株/m ²)、葉体長平均：6～10(cm)
	

取組場所 A におけるアマモの移植場所と、現地調査で確認されたアマモの分布範囲を比較すると、アマモの分布範囲は移植場所と比べてより広範囲に広がっていることが確認された。移植からの経過年数が多い場所ほど沖合方向にも広がっており、また、移植場所の西側では移植範囲の端部からさらに西方向に約 30m の範囲まで拡大していた。



注) 現地調査で確認されたアマモの分布に取組団体からの聞き取り結果に基づく取組における移植範囲を重ねて示している。

●今後実施が望まれる調査等

- アマモの移植場所に関する情報の正確な記録の作成
- 定期的なアマモの生育状況調査(調査時期例 伸長期:5～6 月、衰退期:8～9 月、分枝期:11～12 月)
- 取組場所の周辺に生育する天然のアマモの分布状況
- アマモに蛸集する他の生物の生息状況の調査(稚魚ネットによる稚魚の定量調査、ベントスの定量調査、ダイバーによる魚類・メガロベントスの目視観察調査)